2013　年度　中央大学特定課題研究費　－研究報告書－

所属	文学部	身分	教授
氏名	林　明子		
NAME	HAYASHI, Akiko		

１．研究課題

（和文）メディアの中の言語変種：日独対照の視点から

（英文）Variety of Japanese and German in TV dramas and films

２．研究期間

２年間

３．研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果　和文 600 字程度、英文 50word 程度）

（和文）

テレビドラマや映画には、描かれる時代の言語生活がデフォルメされている。登場人物の年齢、性、階層、場面等についても設定されているため、発話に影響を与える社会的要因を絞りやすい。本研究では「メディアの中の言語変種」という視点から、日本語とドイツ語の作品の分析を行った。ドラマや映画はテクスト世界を形成しているため、構成や展開についても重視した。テクストと談話の分析が中心であったが、メディア分析、音声分析にも配慮し、総合的なアプローチを試みた。

登場人物の発話には、背景となる社会的要因が音声、語彙、統語のレベルで表現されていたが、作品を貫くキー概念、繰り返される表現、語彙や韻律の使い分け、伏線に通じることば遊びなどが特に興味深い項目であった。個々の発話は、作品全体の構成や展開の伏線としても機能している。そしてそこに社会的・時代的な背景が盛り込まれている様相が如実に観察された。日本語の例としては、テレビドラマ「家政婦のミタ」における言語的ステレオタイプとそれを逆手にとった発話が特徴的で、発話の変化がストーリー展開を支えている。ドイツ語の例としては、映画 „Good Bye, Lenin!“ の背景にある東西ドイツの歴史・社会・文化について考察した。コメディ描写の奥に潜むメッセージが、「ドイツ語」というくくりでは捉えきれない東西ドイツの言語行動（語彙を含む）の違いによって映し出され、「映画」というテクスト全体を構成している。以上については、日独の研究者の協力を得、同じ作品を別の視点・方法論から分析する形でも議論を深めた。今回は個別のケースを掘り下げる形に終始したが、今後、分析結果を普遍的に検証する方向へと進めたいと考える。

（英文）

In TV dramas and films, we can observe the use of stereotypical speech styles as well as utterances in the verbal behavior that are far from being stereotypes. I studied the examples where I used discourse analysis as the method. It became obvious both in German and in Japanese that the choice of speech style is deeply connected to the depiction of characters and the development of the plot.

４．おもな発表論文等（予定を含む）

【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）

林明子「言語運用における韻律の役割　－「自然な」日本語と「不自然な？」日本語－」宋協毅、林楽常ほか編『日本語言文化研究』５　大連理工大学出版社（依頼稿）　pp. 201-206　2014 年 12 月

林明子「テレビドラマ学際的分析の試み：発話による人物描写とストーリー展開」中央大学文学部『紀要言語・文学・文化』116　2016 年３月（予定）

【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）

林明子「『家政婦のミタ』の言語的側面：発話による人物描写とストーリー展開」パネル：『テレビドラマ学際的分析の試み　=『家政婦のミタ』を例に=』第 14 回 EAJS 国際会議、リュブリャーナ大学（スロベニア）、2014 年 8 月 28 日

HAYASHI, Akiko „Japanische Fernsehdramen als Spiegel gesellschaftlicher Befindlichkeiten? Sprachliche Aspekte" Vortrag in der OAG: Tokio, den 19. November 2014　ほか２

【図　　書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）

【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）